

議 事 録

会議の名称	令和3年度第2回常陸大宮市総合教育会議
開催日時	令和4年1月25日(火) 午前11時00分
開催場所	常陸大宮市役所4階 議会委員会室2
出席者	<p>鈴木市長 橋本教育長職務代理者 生天目教育委員 宮本教育委員 宮田教育委員 (事務局)</p> <p>小野総務部長 萩谷総務課長 森田総務課課長補佐 小松総務課主査 (教育委員会事務局)</p> <p>諸澤教育部長 木村学校教育課長 小室生涯学習課長 坪文化スポーツ課長 河野指導室長 佐竹指導主事 小泉学校教育課課長補佐</p> <p>(傍聴人) なし</p>
会議次第	<p>1 開 会 2 市長あいさつ 3 協議題 (1) 次期常陸大宮市教育大綱の策定について (2) 全国学力・学習状況調査について 4 その他 5 閉 会</p>
資料	<p>1 教育大綱原案修正案対照表 2 常陸大宮市教育大綱(案) 3 令和3年度総合教育会議資料 全国学力・学習状況調査について 資料1 調査結果概況 資料2 問題別調査結果 資料3 問題別(解答類型)調査結果 資料4 回答集計結果(児童質問紙) 資料5 市における令和3年度全国学力・学習状況調査結果 資料6 市における全国学力・学習状況調査経年変化(5年間) 資料7 市における各分類における正答率(県・全国との比較)</p>
記録方法	発言者の発言内容ごとの要点記録

会 議 内 容

〈午前 11 時 00 分開会〉

○総務課長：

定刻になりましたので、ただいまから令和3年度第2回総合教育会議を始めさせていただきます。

それでは、初めに、鈴木市長より御挨拶を申し上げます。市長よろしく申し上げます。

○鈴木市長：

皆さんお疲れ様でございます。本日は、令和3年度第2回常陸大宮市総合教育会議を招集いたしましたところ、何かとお忙しい中御出席いただき誠にありがとうございます。また、教育委員の皆様には、平素よりコロナ禍における学校運営、教育施策の推進に御尽力、御協力いただいておりますことに対しまして、改めて感謝を申し上げます。

さて、本日の議事でございますが、初めに「次期常陸大宮市教育大綱の策定について」でございます。前回の会議においての御意見を参考にさせていただきます。最終案を作成いたしましたので、御協議をいただきたいと存じます。

次に「全国学力・学習状況調査について」であります。これにつきましては、昨年度の会議においても教育委員の皆様と意見交換をさせていただいたところですが、今日の議事は、この2件となりますけれども、本日の会議が有意義な会議となりますよう、教育委員の皆様からの忌憚のない御意見を賜りたいと思います。

どうぞよろしくようお願い申し上げます。

○総務課長：

ありがとうございました。

続きまして、協議題に入りますが、ここからの進行を常陸大宮市総合教育会議の運営に関する要綱第2条第1項の規定によりまして、鈴木市長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いたします。

○鈴木市長：

それでは、暫時の間、議長を務めます。

まず、本日の会議につきましては、常陸大宮市総合教育会議の運営に関する要綱に基づき公開といたします。

公開の方法は、傍聴を希望する者を認めることとしておりますが、本日の会議傍聴希望者はありませんでした。

次に、常陸大宮市総合教育会議の運営に関する要綱第5条第2項の規定によりまして、今回の議事録署名人に生天目教育委員及び宮田教育委員を指名いたします。よろしくお願いたします。

〔協議題〕

○鈴木市長：

それでは、次第3「協議題」に入ります。

初めに、「次期常陸大宮市教育大綱の策定について」でございます。前回の会議において賜りました皆様の御意見を参考に案を整理いたしましたので、最終案として御協議をいただきたいと思

います。

常陸大宮市教育大綱（案）につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

○総務課長補佐：

それでは、事務局より御説明申し上げます。

次期常陸大宮市教育大綱最終案について、第1回の会議時に提示しました原案から修正があった部分について御説明申し上げます。

A4版の資料を御覧いただきたいと思います。上のほうが原案、下のほうが修正案となっております。

第1回の会議におきまして、基本方針の中の学力向上にコミットする教育の推進について、主に2点について、御協議をいただきました。1点目につきましては、原案の下から2行目になりますが、習熟度別学習や小規模校を生かした学習といった具体的な施策を示していた部分につきまして、大綱の中の基本方針であるため違った表現が良いのではないかという御意見がありました。2点目は、表現、文言上の内容になりますが、原案では、「結果や数字にこだわり」といった表現や、「効果的な武器」といった表現をしていましたが、少し柔らかい表現のほうが良いのではないかという御意見がありました。これらの御意見を参考にいたしまして、次のとおり修正しましたので、以下朗読いたします。

修正案「学力向上にコミットする教育の推進」。未来を担う子供たちが健全に成長し、将来、それぞれが個性を生かし、得意な分野で自分らしく輝けるよう、勉強、スポーツ、文化・芸術等、いずれも結果にこだわる教育を実践し、子供たちが希望する進路に進めるよう一人ひとりの「学び」を全力で応援します。

その中でも、児童生徒の学力向上は、保護者のみならず市民誰もが願うところです。学力は誰もが身に付けることができ、子供たちがその夢や願いを叶えるための大きな強みになります。

本市では、児童生徒の学力の向上を教育における最重点課題と捉え、無限の可能性を持つ子供たちの「学び」の意欲を育むとともに、確かな学力を身に付けるための施策を講じ、子供たち一人ひとりが輝けるための教育を推進します。

以上が第1回の会議からの修正事項となります。次期常陸大宮市教育大綱の最終案についての説明は以上になります。

○鈴木市長：

ありがとうございました。説明が終わりました。ただいま御説明しました常陸大宮市教育大綱（案）につきまして、皆様より御質問、御意見等をいただきたいと思います。御質問等はございますか。

○生天目委員：

前回、私が発言しました。この修正案で十分かなと思います。大綱なのでこれでよろしいかなと思います。

○宮本委員：

前回に比べたら、大分柔らかくなったかなと思うんですが、前回私が抱いていた、気になっていたところについて気付いたんですが、勉強は、どの子も頑張れば得点をアップすることができる、スポーツは、頑張れば記録を上げることができる。しかし、文化とか芸術は、色々なものが認められていて、これが素晴らしいという結果という、それが果たして結果になるのかなという、それぞれが個性を表現するものとして、それを表現する側と受け止める側と、そういった関係で成り立っているかと思うので、文化とか芸術には、結果という言葉が当てはまるのかなと思

いました。

○鈴木市長：

いかがでしょうかこの辺りは。指導主事のほうではありませんか。

○佐竹指導主事：

難しいところであるかと思うんですが、確かに勉強・スポーツについては、結果につながるところはあるかもしれないですが、文化・芸術については、結果をどのようにとらえるというところに係ってくる部分ではあるのかなと思います。

○鈴木市長：

例えば、絵画でもコンクールがあると金賞、銀賞、銅賞という結果は出ることは出るんです。ただ、文化というはどうなんでしょうか。どうでしょうか、宮田委員。

○宮田教育委員：

言葉はすっきりとした言葉が良いかと思うんですが、芸術・文化、スポーツもそうかもしれませんが、結果なのか、成果なのかというのが頭をよぎりました。

○鈴木市長：

成果というのは、ニュアンスでいうと、前回この辺であったのがここまで伸びたというのが成果ですよ。結果というのは、どちらかというと絶対評価というニュアンスなんでしょうか。

○宮田教育委員：

成果のほうが、結果にたどり着くための過程が含まれていると思います。そのような気がしました。

○鈴木市長：

ことの発端は、今の学校教育は、比較的結果にこだわる部分が少ないようなところがあると思います。しかし、社会に出るとすべてが結果で判断されるのが今の世の中だと思います。であれば、学校教育もある程度結果にこだわるような教育に転換していかないと、子供たちが社会に出たときに、例えば、引きこもりになってしまったりということにつながるのではないかと、ところがベースにあると思うんです。芸術については、ある程度結果を求められると思いますけれども、文化は難しいかもしれないですよ。

指導室長、良い案はありませんか。

○河野指導室長：

基本的に自分の生活をより良くすることが文化だと思うんです。歴史的な捉え方だと、その広がりが文明です。自分の生活だから勉強においてもスポーツにおいても、文化という言葉は全部に通じるものなのかなという、広い範囲で捉えることはできるんですね。そう考えると、この文章に入っている私も違和感はありませんでした。

○鈴木市長：

「文化」を取っても良いかもしれませんがね、そういう意味であれば。「文化」を取って、「勉強、スポーツ、芸術等」にすれば、ある程度すっきりするのでしょうか。

○生天目教育委員：

「文化」を「等」に含めてしまえば、「文化」を削除しても大丈夫だと思います。

○鈴木市長：

そうすると、残りは宮田委員の御意見で、結果にするか成果にするかですが、ここはどうでしょうか。

○宮田教育委員：

考えてみると、それぞれ結果を求めるといのは、目標の先にあるものを結果として判断するしかないと思うんです。そういう意味では、私がふと考えた成果ではなくて、やはり、すっきりするのは結果かも知れません。

○鈴木市長：

成果というのは相対評価で、結果は絶対評価なのかも知れませんね。

○宮田教育委員：

「結果」でお願いします。

○鈴木市長：

まとめますと、「文化」を取って、「勉強、スポーツ、芸術等」という文言に変更でよろしいでしょうか。

それでは、お諮りいたします。常陸大宮市教育大綱につきましては、本案から「文化」を削りまして、「勉強、スポーツ、芸術等」という文言に変えて成案と決定することに御異議ありませんか。

〔「良いと思います。」と呼ぶ者あり〕

○鈴木市長：

ありがとうございます。異議なしと認め、本案をそのように変更して成案とすることに決定いたしました。

本教育大綱につきましては、令和4年度からの適用に向け、公表してまいります。

以上で「次期常陸大宮市教育大綱の策定について」の協議を終了させていただきます。

続きまして、次の協議題に入ります。

次の協議題につきましては、より意見交換のしやすい協議進行とするため、この間、事務局に座長を任せたいと思いますので、御了承願います。

それでは、事務局お願いいたします。

○総務部長：

それでは、しばらくの間、座長を務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。着座にて失礼いたします。

ただいま市長からありましたように協議題（2）「全国学力・学習状況調査について」でございます。本協議題につきましては、昨年度の総合教育会議においても御協議をいただいたところでございます。

引き続き、この総合教育会議の場で、市長部局として、教育委員会として、結果について情報

共有を図るとともに、結果を踏まえた今後の教育の方向性や、どこに重点的に力を入れていくかなどについて御意見を頂戴したいと存じます。

それでは、指導室佐竹指導主事から説明をお願いします。

○佐竹指導主事：

それでは、お手元の資料に沿いまして御説明させていただきます。

まず、全国学力・学習状況調査のねらいでございますが、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析・検証しまして、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることをねらっております。

では、本市における状況について御説明いたします。資料1を御覧ください。

こちらは、調査結果概況といたしまして、教科ごとの平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差等の数値データによる分析と、正答数の分布の形状等から全体的な傾向を把握できるようになっております。

資料2を御覧ください。こちらは、問題別調査結果でございます。設問別の結果から、学習指導要領の領域や評価の観点、問題形式ごとの正答や無回答の状況等が把握できるようになっております。

資料3を御覧ください。こちらは、問題別（解答類型）調査結果といたしまして、個々の設問におきまして、それぞれの児童生徒がどのように解答しているか、どのような選択肢を選んでいるか、また、無回答の状況、こういった部分につきまして確認することができるようになっております。

資料4を御覧ください。こちらは、質問紙の回答結果でございます。学習意欲、学習環境、生活習慣等や指導方法に関する取組等を把握することができます。例えば、毎日朝食を食べているか、どのような時刻に就寝、起床しているか、家庭でどの程度学習しているかなど、学校外での生活や学習の様子を把握することができるようになっております。

続きまして、資料5を御覧ください。こちらは、令和3年度の全国学力・学習状況調査結果でございます。市教育委員会で作成しまして、校長会で提示している資料になります。上段の表は、令和3年度の結果でございます。下段の表は、令和2年度は行っていないため令和元年度の結果を示しております。全国、県との平均と比較しまして、プラスになっている数値が青、マイナスになっている数値を赤で示しております。表より下の部分でございますが、国語及び算数・数学の小中学校別の成果と課題及び改善策を示したものになっております。国語につきましては、全体的な傾向といたしまして、文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握すること、文の主述の関係を捉えること、作者の心情を理解することなど、読解力の部分に課題が見られております。今後の指導のポイントといたしましては、文章を批判的に読む習慣を付けることや事実と意見を読み分ける工夫を施すなどの手立てが重要と考えております。裏面を御覧ください。こちらは、算数と数学の全体的な傾向でございますが、図形の構成要素を捉えて面積の求め方を記述すること、複数のデータの読み取り、活用などについて課題が見られました。今後は、低学年のうちから図形の操作の学習などを積極的に導入することでしたり、統計的な問題解決の方法で考察をする練習をしていくなど、ICTも活用しながら論理的な思考力を育成することが大切であると考えております。その下につきましては、質問紙調査における学習面に関する内容の抜粋でございます。県や全国と比較すると、全体的に本市のほうでは肯定的な回答が多くなっていると思います。

では、資料6を御覧ください。こちらは、本市における過去5年間の経年変化を示したものになっております。県、全国と比較しまして、青がプラス、赤がマイナスを示しております。ややばらつきはございますが、全体的に見るとおおよそ横ばいの状況、また、若干ではあります、上昇の兆しも見られる状況になっております。

最後に、資料7を御覧ください。各分類における正答率を示したものになっております。先ほどと同様で、県や全国と比較して青がプラス、赤がマイナスを示しております。中学校の国語に成果が表れておりまして、これまでの御説明の中で申し上げました内容に課題が見られることが御確認いただけるかと思えます。

以上が結果の活用でございまして、市教育委員会では、市の分析結果といたしまして、先ほどの資料5の形で校長会に提示しまして各校に周知をしております。各校におきましては、自校の結果を分析しまして、数字等の公表はせずに、学年だより等で成果や課題、改善策等について保護者にお知らせをしている状況でございます。

説明は以上になります。

○総務部長：

説明が終わりました。それでは、皆様より御意見等をいただきたいと思えます。自由討論となりますので、よろしく願いいたします。

○鈴木市長：

指導室長も委員の皆様も分かる方は教えていただきたいんですけども、小学校が、あらかた全国平均、県平均よりも下、中学校になるとこれが改善されるというのは、何か原因はあるのでしょうか。

○河野指導室長：

先ほど教育委員さんからもお話があったんですが、結果という言葉がキーワードで出てくると思うんですけども、中学校の場合、やはり結果にこだわる授業、テストの受け方というのを意識させて授業をやっています。小学校は結果ではなくて、どちらかという、学級の中で友達と学び合うこととか、心の教育とかに重点を置いております。常陸大宮市の子たちは、中学校に行って伸びる傾向が出てくるのは、学習の仕方、子供たちの意識のさせ方というところが非常に大きいかと考えております。

○鈴木市長：

例えば、成果でも結果でも良いんですけども、出していこうと思えば、層がありますよね、トップの層と下位の層と中間層と。この辺は学校側としては、今はどこをどう伸ばしていこうとやっているんですか。

○河野指導室長：

基本的には、下位層と中間層が伸びない限り、全体の学力は上がりません。トップの子たちが引き上げようとしても、全体的には上がりません。

○鈴木市長：

上のほうの子たちは、自分でどんどん進めていく人が多いですかね。ということは、中間から下位の子供たちをどのように持ち上げていくか。今常陸大宮市でやっていることには、どのようなことがあるんですが。特色があるものがあるとするれば。

○河野指導室長：

習熟度別の学習はやっていると思うんですけども、その子の持っている現在の力とその子が本来持っている能力との兼ね合いをしっかりと見て、その能力を發揮させるというところで個別に時間を取って、特に苦手な教科とか積み上げが必要な教科は、重点的に指導をしてもらって

ます。特に中学校で、モデルとして第二中学校と明峰中学校で取り組んでもらっているところです。

○鈴木市長：

私が若い職員と話をする、スポーツも芸術も確かに大事なんですけれども、やはり自分の子供の学力を上げたいと思っている職員が、私が話した感じではほとんどです。ある程度結果を求めるような教育は、今は市民の方々から要求されていると思うんです。私はそのような感じを受けているんですけども、委員の方々、何かありますか。

○生天目教育委員：

子供の持てる力というのは、常陸大宮市の子もあると思うんです。刺激の与え方、それから子供の伸びについては、室長が言われましたけれども、教員の意識も、小学校に勤務する職員と中学校に勤務する意識の差はあるような気がします。どうしても中学校は、高校進学を控えておりますので、数字という意識があります。今は昔の偏差値教育から脱しましたので、大きなテストは小学校においてそれほど実施していないですね。ですから、小学校の先生は、どうしても1年たつと終わりという意識が何かしらあるのかなという気がするんです。つまり、数字にこだわった教育というのは、中学校のようになっていないのが現状かなという気はしています。校長先生方だけではなくて、色々な折に小学校の先生にも少し刺激を与えるような方策が必要かなということは感じております。

○鈴木市長：

ちなみに学校の先生の評価は、どのようなジャンルで、どういう形で評価が出るのでしょうか。校長先生と教頭先生になるには試験がありますから、あまり通常の評価は関係がないのでしょうか。

○河野指導室長：

関係はあると思います。役所と同じだと思います。達成度の評価と能力面の評価があります。管理職が一般の先生を評価し、管理職については教育長が評価するということで、きちんと評価をして県に提出しています。

○鈴木市長：

教頭先生の試験であるとか校長先生の試験のときに、当然それまでの評価というのは加味されるということですね。

○河野指導室長：

当然加味されます。

○橋本教育長職務代理者：

自分は小学校と中学校の教員を経験しているんですけども、小学校の先生は、全教科を持つ形になりますが、どうしても受け持ちの子供たちからすると、下から持ち上げるような感覚の指導を毎日やります。ですから、中位から下位の子を目線にして、下から引き上げていくような感覚で指導していました。中学校では、主要教科は持たなかったのですが、今の話に関連しますと、上の子から引き上げていくような、上の子に刺激を与えることで全体を引き上げてもらうような、上を目線にした指導をしているような感覚にあると思います。実際に自分の目標を決めるときも自分の目線をどこに置くかということで、それを達成できたかということが評価になってきます

ので、そういった先ほどから出ている空気というか、そういったものは、小学校と中学校とでは多少目線が違ってきているのかなと思っております。特に学級の人数が少ないですので、先ほど室長が言われたように、ばらつきの問題も大きく出てきてしまうのではないかと思います。

○鈴木市長：

宮田委員、いかがでしょうか。

○宮田教育委員：

学力を付ける過程を終了させることは、中学校においても小学校においても同じだと思っておりますが、こういう結果を見たときに、中学校は教科担任制がありますので、1年から3年というものの系統を分析しやすいと思います。小学校の場合には、いわゆる国語部会とか算数部会とかがあるのではと思うんですけれども、自分の担当している学年の学力を付けるということにおいては、国語、算数だけではなくて理科も社会も入ってくると思うんです。そういうことなので、小学校の先生方も一生懸命やっているわけですけれども、授業の内容を良くするためには、下位の子供に基準を当てなさいということで指導案というのは作成されていると思うんです。学力を付けさせたいというのは、誰もが思っていることですが、教科担任や系統ということにおいては、結果にこういうふうに表示してしまうのかなという気がします。色々と迷うことがあります。

○鈴木市長：

宮本委員、いかがでしょうか。

○宮本教育委員：

今まで色々な方の話を聞いて、私は子供たちを学校に通わせている保護者として、先生方が色々な努力をされているんだなと思ったんです。子供たちは、保育園、幼稚園から小学校に上がって、まず小学校の生活に慣れるというのが保護者としては第一の願いなのですが、現在は、不登校ですとか、学校に行きたくないという児童も以前より増えてきているという中で、先生方が、学校生活に慣れるように学業だけでなく、学校生活も見てくださっている。そして、6年間、学校というのはこういうものなんだ、学校というのは楽しいんだというベースがあってからこそ中学校での学びがあるのではないかと思います。先ほど指導室長がおっしゃったボトムアップという話なのですが、私も子供たちの友達に色々な話を聞くのですが、担任の先生が嫌いなんだよねという子が少なからずいるのですが、何で嫌いなんだろうと考えたときに、宿題をやっていかないから先生に怒られるから先生が嫌いなのかなというのが思い浮かんだんです。なので、もちろんその先生を好きな子もいるけれども、先生が嫌い、宿題をやっていかないから怒られるということは、そうしたら勉強をしなくなるよなあというふうにも思ったんです。ただ、今年の9月からタブレットを自宅に持ち帰って来て、宿題などもタブレットでやるんですが、タブレットでの宿題が出たときの取組は、書くものに比べて早いので、何かそういったものを活用して苦手をなくすことができるのではないかと子供たちを見ていて思いました。

○鈴木市長：

お陰様で宿題は毎日たくさん出していただいていますね。やらないと家庭では怒られますから。ただ、宿題を持ち帰って来たらすぐにやりなさいというのではなくて、ちゃんと次の日の学校に間に合うように自分で時間配分をしてやりなさいと教えているのですけれども、確かに宿題をやるという習慣付けは大事かも知れませんね。一日のうちには何時から何時までは宿題をやる時間を作るというのは家庭環境としては大事なんじゃないかな。

私は、学校の先生は一生懸命やっていると思うんです。宮本委員がおっしゃいましたように勉

強だけではなく、私生活のほうまでしっかり見ていただいてまして、さすが公教育だなと思いますし、感謝をしているんですけども、そうは言っても、中高一貫校が増えてきて、中学受験に夢中になって取り組んでいるような社会的風潮があるんです。その中で、多少そういう感覚も入れていかないと、教育は勉強がすべてではありませんけれども、結果的に遅れていく可能性があるのかなと私は思ってしまうりするのですが、指導室長、いかがでしょうか。

○河野指導室長：

市長のお話だと、中高一貫校が増えていくというと、点数を始めとする結果が求められている現状をどうするかという問いと捉えてよろしいですか。

○鈴木市長：

私たちのときは、小学校はテストの点数を気にしない感じで過ごしてきて、その代わりたくさん遊んだり、社会のルールを教わってきたり、とにかく運動をしていました。それが中学校に行くと、初めて高校受験というものが頭に浮かんできたころから、勉強をしなくてはまずいのかなという気持ちから勉強を始めたのですけれども、常陸大宮市の子供たちと同じように、その当時の子供たちは、勉強を始めてからの伸びしろがあったと思うんです。そういう時代があった一方で、今は段々と受験というものが前倒しになってきている。そういう意味で言うと、小学校のときは、一生懸命に体を鍛えて将来の伸びしろに備えるような、そういう期間から多少変えていかないと高校受験を意識する中学生のような感覚を入れながら変えていかないと、段々と私立の学校に公立校が遅れを取ってしまうのではないかと思ってしまうんですけれども、その辺の見解をお聞きしたいと思います。

○河野指導室長：

私どもとしてできることは、公立学校だからこそその良さを全面的に打ち出していく必要があるのかなと思うんです。結局は、持てる能力を最後に結果として出すときに必要になってくるのは、学習面にしても何にしても地頭の部分だと私は思っているんです。力を持っている子は、最後は逆転していくので、どうしても私の考えにもなってしまうのですけれども、高校入試においては、トラックに入れられてしまうんです。それぞれの学校がトラック競技として捉えてしまうと、その学校に入ると、トラックを走り切ることになります。どうしても良いトラックに入りたいために中学生を頑張るんです。それがやる気の部分ではあるんですけれども、トラックがどうこうではなくて、私たちは、公立中学校を担当する教員として見てみると、学ぼうとする意欲と学びに応える先生たちの指導力と、さらにそれを支える学校の環境や地域の環境が整っていて、心豊かに一生懸命に遊んで、学んで、先生に怒られて家に帰っても、めげずに次の日に元気に学校に来るといふ子供たちを育てるといふのが、地域に根差した公立学校の良さだと思っているんです。ですので、市長がおっしゃるように私立や中等教育学校などの受験が出て、受験が前倒しになっていますけれども、それに負けないような公立学校の良さをしっかりと捉えて前面に打ち出していく必要があるというのは切実に感じております。

○鈴木市長：

ほかにございますか。

○生天目教育委員：

今の子供たちの学力を考えると、我々くらいの年代になってくると、「昔は」と言うんですよ。市長が言われましたけれども、昔は追い付けたか、むしろ追い越せたかもしれないんですけども、その当時の学習内容と今の子供の学習内容では、かなり量が違うのだという意識をしな

いといけないのかなと思います。昔は、同じ単元を学ぶにも時間数に余裕があったんです。今は余裕がないですね。小学校で、1時間目と2時間目の間の休み時間が5分しか取れないような状況です。私たちのころは10分以上ありました。そういう状況ですから、1年生のうちから時数が多くなっているんですね。内容も上から下りてきている。ですから今の子供はハードだと思います。だからこそ、きっちりと目標を持たせて楽しく学ばせたい。楽しくというのは公教育なので、結果だけを追うと、どうしても追い込んでしまうので、そこに喜びを見いだしながら、それだけの量の内容を消化させたいと思っているので、我々が昔のことを言うときにそのことを忘れないようにしたほうが良いかなと思っています。私は、今の子供は頑張っていると思います。

○鈴木市長：

ゆとりがあってはまずいのかもかもしれませんけれども、十分な時間を与えて、一つのカリキュラムに対する適正時間というものをしっかりと考えなければならぬということなんでしょうね。前教育長から頂いた本にも同じことが書いてありました。

ほかに言い残したことはありませんか。

先ほど、室長が言ったように地頭というのにも確かにありますよね。昔、水戸一高が良かったのは、日立の総合研究所の学者の子供たちがいっぱい入ってきたからという話があって、今は土浦一高が公立では良くなっていて、それは筑波研究学園都市の教授の方々の子が入ってきているからと言う方がいましたけれども、そういう意味では地頭というのとは否定できないし、そういう意味で常陸大宮市の教育は良いね、結果を出しているよねと言われるためには、小学生のころは中間層と下位層をどうやって持ち上げるかということになるんでしょうか。

具体的には、例えば予算をこれだけ増やせば、こういう教育ができるというのはあるんですかね。

○河野指導室長：

来年度に向けて新規事業を相談させていただきました。

○鈴木市長：

そういう子供たちに補講の機会を与えるような予算付けというのはどうなんでしょうか。

○河野指導室長：

全体に補講ということ言うと、先ほど宮本委員からあったようにタブレットでの宿題もあったんですけど、次年度は、タブレットの中に塾の講師が講義をしているアプリを入れて、家でも勉強ができるように。得意な子も不得意な子も同じ環境で同じ講義を受けられて、それも何度も無料で見られるというものを設定する予定でいますので、子供にはそのような環境を与えて、子供だけに任せていては勉強をしませんから、そこでも学校の先生と一緒に学んでいくというところで、学習の機会を保障するというところでトライしてみようと思っています。

○橋本教育長職務代理者：

先ほど補習という話が出ましたが、私の地区辺りでは、子供たちが道路を歩いている姿が全く見えないんです。授業が終わりますと、ほとんどがスクールバスで下校しています。我々が若いころは、子供を残して補習というのをやっておりました。掛け算九九を一通りやってから帰すとかということが容易にできたこともあるんです。ところが、現在は、ほとんどが集団下校という形ですので、そういう機会も非常に少なくなっているということでもあるのではないかと思います。そのためにタブレットなどで家庭で学習ということになりますと、得意な子はタブレットを開くと思いますけれども、全く見向きもしない子もいる。授業の中でタブレットを開いていて

も、どれだけの子が食い付いているかということもある。何をやってもそうなんですけれども、興味のない子が少しでも食い付けるような工夫をしながらも補習的な時間というのは限られてしまっているのも残念なところだと思います。

○鈴木市長：

素人の考えで言うと、ゲーム感覚で勉強ができるようなアプリがあったら最高だなと思う一方で、読書にしても骨のある本というのは読むと疲れるんです。ただ、そういうものを読む必要性があるというお話も聞きますし、その辺は難しいんでしょうね。今はスクールバスで帰るんですけども、そのまま家に帰る人よりも学童保育とか、放課後子供教室などに行く子供が多いと思うんです。そういうところと学校側が連携できれば、昔でいうお残りみたいなことができるかもしれないですよ。その辺はどうでしょうか。

○河野指導室長：

学童の中でも宿題をやっていただいております。思いつきなんですけれども、そういうところとも教育が連携を図れていくと更に良いのかなと感じました。

○鈴木市長：

先生の負担になってしまうかもしれませんが、子供も教科ごとの強み、弱みとかを走り書きでも良いからお互いに共有できれば、面白いのではないかと思いますね。そこで行政がどういことができるかというのを考えるのも面白いかもしれません。

○橋本教育長職務代理者：

最後になります。先ほど教育委員のほうでも、昨年に市長からありました結果の公表のことで話し合いをしました。資料5を中心としまして、全国そして県、それから常陸大宮市としては、各学校ごとというのは、まだまだマイナス要因も多いだろうということで、数値的なものはそこにとどめまして、資料の下に記載がある成果と課題、そして今後の指導のポイントの辺りを、各学校のばらつきもありますので、その辺の手立て等を含めた形で公開してはどうかという話し合いをしましたので、そういった内容でどうか提案をしたいと思います。検討をよろしく願いいたします。

○鈴木市長：

私は大賛成です。

○諸澤教育部長：

公表につきましては、ただいま橋本教育長職務代理者がおっしゃったようなことを参考に公表できるような形で進めてまいりたいと考えております。

○鈴木市長：

将来的には各学校の学力でもスポーツでも持ち上げていながら、各学校別の成績を発表しても自慢になるような、そういう常陸大宮市にしたいなと思っております。是非、御協力よろしく願いいたします。

○総務部長：

それでは、ほかに御意見はよろしいでしょうか。

貴重な御意見ありがとうございました。全国学力・学習状況調査につきましては、毎年実施さ

れると思いますので、本日の御意見などを今後の学習指導に役立てていただければと存じます。

それでは、以上で「全国学力・学習状況調査について」を終了させていただきます。

続きまして、次第「4 その他」に移ります。何かその他御意見等がありましたらお願いしたいと思います。委員の皆様から何かないでしょうか。

ないようですので、以上で協議を終了といたします。

御協議ありがとうございました。

これもちまして、令和3年度第2回常陸大宮市総合教育会議を閉会といたします。皆様お疲れ様でした。ありがとうございました。

〈午前 11 時 53 分 閉会〉

(議事録署名人)

生天目 茂

(議事録署名人)

宮田 則子